

いずみ

Izumi

〈69号〉

医療法人 井野辺 敬会
井野辺病院

大分市中尾字平255番地
TEL 097-586-5522
FAX 097-586-5656

2017年10月1日発行



院長 井野邊 純一

「医師として、医業、研究、
災害復興支援など
全力で取り組みます！」

こんにちは、井野辺病院の院長の井野邊です。皆さまお元気でお過ごしでしょうか？私は元気に仕事をしています。さて今日は現在の井野辺病院の状況をお知らせします。

1. 在宅サービスの再編成

おかげ様で、このところ外来リハビリ、通所リハビリ、通所介護、訪問看護、訪問リハビリを利用している方が増加して参りました。ところが来年度の4月に予定されている医療・介護保険の同時改定で、介護保険を使用している方の医療保険でのリハビリが強く制限されるようです。つまり今まで通りのサービスが受けられない方がでてくるようです。そこで我々は全体的にリハビリが受けられるように、新たにリハビリのスペースを確保するための工事を始めました。そこでは通所リハビリの一日あ

たりの定員数を増やし、更に短期通所リハビリと自由診療で行うリハビリが出来るようになります（自由診療とは医療保険を使わない自費の診療の事です）。また外来の通所リハビリ（医療保険）については適用のある患者さんは従来通りリハビリが受けられるようにします。同じスペースに「訪問リハビリきぼう」のステーションを設置し、職員間により濃密に連携をとることにより在宅患者さんのサービス向上に努めます。工事期間中は騒音等であるさく感じられるかもしれませんが、ご理解の程お願い申し上げます。また家庭でのリハビリ、自主訓練のあり方を根本から変えようと思っております。患者さんの自宅と当院のリハビリ室にホットラインを作って自宅でのリハビリの様子を画像で見ることができるようになります。

最新の「情報伝達技術」を用いることで、患者さんが在宅で適切なリハビリが出来る環境を整備していきます。そうすることでより細やかなリハビリの指導が可能となります。足の麻痺のリハビリ、筋力増強訓練、嚥下訓練等が対象になる予定です。現在システム構築中ですのでしばらくお待ち下さい。

2. サイボーグ型ロボット「HAL」を用いた歩行訓練

HALの導入を進めています。特に神経難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）、筋ジストロフィー、末梢神経障害の患者さん達には朗報です。体の機能が徐々に悪化していく進行性の病気の方に対し少しでも現状を改善、維持するため有効なリハビリとしてHALを位置づけています。また保険の対象にならない方のためにも自由診療でHALが受けられるシステムも作っていますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



3. 九州北部豪雨災害へのリハビリ支援（J-RAT-Jエイラット大分としての活動）

J-RATとは大規模災害時に被災地でリハビリができるように支援する団体です。その下部組織の「J-RAT大分」を私たちは立ち上げ昨年の熊本地震から活動を開始しています（私は理事の一人です）。今回の九州北部豪雨災害での被災者にリハビリをしてほしいと大分県からJ-RAT大分に要請があり

ました。当院からも数名のリハビリスタッフを派遣して日田地区で被災者へのリハビリを行って参りました。幸いにも熊本地震と比べ、被災者にとつて健康管理上、リハビリ支援は大変必要なことですので、今後も継続して支援体制を強化していく予定です。

4. 今年のおおいたエイド

災害復興支援イベントとして開始した「おおいたエイド」も今年で6回目を迎えます。今年は10月14日の土曜日午後12時から大分市コンパルホールで行います。コンサートチケットは全額被災地支援に充てます。今回の支援先は福島県の大原事故の被災地を助けている団体（南相馬市ボランティア活動センター）、ネパール大震災で学校が失われた地区での学校を再建しようとしている団体（ネパール大分プロジェクト）に加えて、地割れが起こった豊後大野市朝地町綿田地区、九州北部豪雨災害に襲われた日田市を新たに加えました。我々の故郷の災害援助に協力したい方はぜひチャリティーコンサートに足を運んで下さい。よろしくお願い申し上げます。



朝地町綿田地区の地割れの様子を見学させて頂きました

井野辺病院の理念

人々がいきいきと暮らせるように、
リハビリテーションを通して地域社会に貢献する。

常に高い目標をもち、人生の質の向上に努める。

「井野辺病院の運営方針」

＜リハビリテーション・ケア体制＞

急性期から在宅医療まで、充実したリハビリテーション・ケア体制を提供する。

＜医療体制＞

安全で質の高い医療を、インフォームド・コンセントに基づいて提供する。

＜職員の育成＞

患者・家族から必要とされる職員になるための教育に努める。

＜健全経営＞

職員の満足度向上に努める。

糖尿病について （最近の話題）



内分泌内科医師 井手野 順一

こんにちは。井野辺病院内科で主に糖尿病・内分泌を担当させて頂いております井手野といいます。今回は糖尿病に関する最近の話題について、紹介いたします。

昨年の日本糖尿病学会学術総会で、高齢者糖尿病の血糖コントロールの目標について指針が示されました。特徴として個別化医療の考えが取り入れられており、ご本人の身体状況や認知症の有無・使用している薬剤の種類・周囲のサポート状況などを考慮して、個人の血糖値の目標を決めることとなっています。この背景には高齢者では重症低血糖が生じやすいことや、低血糖を生じると認知機能が低下する危険性が高まることなどがあります。したがって特に高齢の糖尿病患者さんでは、低血糖を回避しながら個人に応じた目標

の血糖値を目指していくことが重要となります。

食事療法では、糖質制限食（ロカボ）を取り入れる方が増えつつあります。これは食事の三大栄養素（炭水化物・糖質、たんぱく質、脂質）のなかの糖質を減らし、代わりにたんぱく質と脂質を増やす食事です。糖質制限には体重を減らし、食後の血糖上昇が回避でき、血糖コントロールが改善するという利点があります



が、実際にどのくらいの糖質制限がよいのかについてはまだ一定の見解が得られていません。一般的な食事は全体エネルギーの50～60%を炭水化物が占めており、1日1800kcalを摂取する人はおよそ250gの糖質を主食である白米やパンから摂取しています。糖質制限でも1日130gの糖質は必要という意見が多いことから、大まかには糖質を半分にするとというイメージとなります。しかし糖質制限には腎機能悪化や動脈硬化進行の懸念があること、

SGLT2阻害薬というタイプの薬を飲んでいる人は糖質制限を行なわないこと、などの注意点があります。

新しい糖尿病薬としては、3年前に発売されたSGLT2阻害薬があります。この薬の特徴は尿中にブドウ糖を排出させて、インスリンを介さずに血糖を低下させることです。また血糖低下作用の他に体重を減らし、血圧を低下させ、腎臓や心臓を保護する作用もあることから、今後服用する人が増える可能性があります。この薬は内服すると尿の回数が増えることや脱水になりやすくなること、尿路感染症が生じやすくなることなどに注意が必要です。

以上、糖尿病領域における最近の話題について簡単に紹介させて頂いたできました。食事療法や薬など、糖尿病治療についての疑問点があれば気軽にお尋ね下さい。

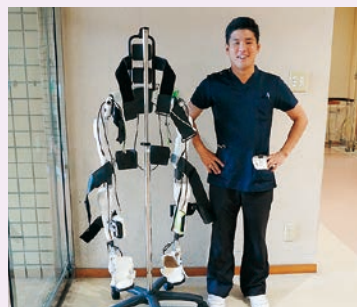


（内分泌内科に関するお問合せ）

井野辺病院 外来

097-586-5522

ロボット外来 「HALハル」について



理学療法士 安東 泰士

理学療法士の安東 泰士（あんどう たいし）と申します。井野辺病院に入職してから3年間、回復期病棟で働き、昨年度1年間はロボットスーツHAL（ハル）を開発しているサイバーダイナミクス株式会社へ出向しておりました。

今回はHALの事、出向中の事、そして今から取り組んでいきたいことなどをお話しします。

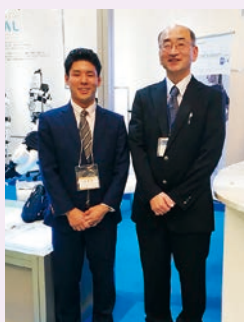
まずHALとは何か？についてお話しします。HALとは腕や脚に装着し、モーターがアシストすることで動作を助けてくれる機器の事です。皮膚に貼った電極から手足を動かそうとする信号（生体電位信号）を読み取り、それに基づいてモーターが動きます。

現在、手足が動きにくくなった方のリハビリや腰痛がある方の腰部負担軽減に用いられています。また、医療機器として認証されたモデルもあり、医療保険の対象となっています。

次に出向中の事です。サイバーダイナミクス株式会社では営業部に配属され、機器のデモや展示会、機器導入に向けた説明、導入後のフォロー等を行いました。出張続きの日々で、全国25都道府県をめぐる激動の1年間でした。

日本のどこに行こうとも、患者様を治すために試行錯誤している病院があり、当院も負けていられないと強く感じました。ある医師に言われた「手術室は日々最新の機器を導入して進化しているのにリハ室は全く機器も変わらず進化していない」の一言が悔しさとともに今も心に残っております。

当院も進化をする為に、医療機器として認証されたHAL医療用下肢モデルを5月より導入しています。まだまだ治療させて頂いた患者様の人数は少ないですが、進行性神経筋難病の方を中心に治療を行っています。これからも「少しでも長く自分の足で歩く」といった希望を叶えられるよう尽力していきます。



京都で開催された日本リハケア学会にて

（リハビリに関するお問合せ）

097-586-5522

リハビリテーション担当まで

『訪問看護ステーション ひかり』のご紹介

《訪問看護とは》

住み慣れた自宅や地域で療養生活を送れるように、医師との連携をとりながら専門的な知識と技術で看護師が支援を行います。

緊急時は24時間365日体制で対応しています。電話応対だけでなく、状況に応じて訪問できる体制をとっています。

また利用者さまが他のサービス（通所リハビリ等）を利用されている場合、担当の訪問看護師が様子を伺うことがございます。関係施設との連携もしっかりとついていますので安心してご利用ください。



《訪問看護の対象》

▼介護保険による訪問看護
要支援・要介護認定を受けている方で、主治医が訪問看護の必要性を認めた方

▼医療保険による訪問看護
年齢に関係なく、病气やけがに

てご家庭で療養が必要と主治医が認めた方、厚生労働省が定める、難病の患者さん等

《利用手順》

かかりつけの医師またはケアマネジャーにご相談のうえ、お申し込みください。かかりつけ医がいない場合は、直接当ステーションにご相談ください。

《サービス内容》

【症状・障害の観察】

血圧、体温、脈拍等の測定、心身の状態を観察

【医療的処置の実施、相談指導】

医療機器、カテーテル等の操作方法、指導。注射、点滴

【日常生活の支援】

清潔、食事、排泄の援助、入浴介助、療養環境の整備

【服薬管理】

自宅で適切な薬が服用できるよう助言

【かかりつけ医・サービス事業者との連絡・相談】

症状に関して主治医と連携、自立した生活が送れるようケアマネジャーと連携

【ターミナルケア・家族等の支援】

その人らしい人生の最期を迎えるために支援

【認知症・精神障害者のケア】

日常生活の自立支援、生活のリズムの取り方、悪化防止や事故防止の指導

かかりつけの医師と連携して在宅生活をサポートします。



《ご利用料金》

介護保険でご利用の場合
訪問時間／30分未満……463円
30分～60分……814円
1時間～1時間半……1117円

※表記料金は介護保険制度を利用し、一割負担の方の目安です。
※病状等により加算料金が発生する場合もございますので詳細は担当職員にお尋ねください。

医療保険でご利用の場合
利用料金が異なるため、利用料の1～3割負担となります。

《お問合せ》

097-574-7538

訪問看護ステーションひかり
担当 相野

『訪問リハビリテーション きぼう』のご紹介

《訪問リハビリとは》

利用者様が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、理学療法士5名・作業療法士1名・言語聴覚士1名が支援を行います。

当院では利用者様一人ひとりが「きぼう」を持ち安心して在宅生活が送れるよう支援をしていくという目標から、「訪問リハビリテーションきぼう」という名前を平成21年5月から訪問リハビリを行わせて頂いています。

《訪問リハビリの対象》

○介護保険をお持ちの方は介護保

険にて行います。

○介護保険をお持ちでない方は医療保険にて行います。

どちらとも主治医が必要と認めただけに限り利用が出来ます。

《利用手順》

- ①主治医・担当ケアマネジャーへ相談し利用許可を得る。
- ②井野辺病院の医師が診察を行い、リハビリの指示書を作成する。
- ③サービス担当者会議を行い、支援内容や日程を決定する。
- ④訪問リハビリの利用開始となる。

《サービス内容》

【ADL・IADL訓練】

歩行・トイレ・入浴・更衣・調理・趣味活動等の日常生活の動作をより改善する練習を行います。

【基本動作訓練】

寝返り・起き上がり・立ち上がり・座位・立位等、基本的な動作の改善・指導等を行います。

【環境調整・指導】

住宅改修や福祉用具のアドバイス、介護方法やリハビリ指導もを行います。

【機能訓練】

筋力強化や関節が硬くならないような訓練や電気治療器にて麻痺の改善を図ります。また、ご自分でも行えるようリハビリ指導もその方に合わせて行います。



写真上) 日常生活の動作の訓練



写真下) 筋力強化や関節の訓練

【言語聴覚士の訓練】

食事指導（食べ方、食べさせ方、姿勢・食事の形態）や飲み込みの訓練、コミュニケーションの訓練等、ご本人様・ご家族様への指導・訓練を行っています。

【その他】

ご本人様・ご家族様が日常生活上で困っている事がありましたら、その都度対応させて頂きます。

《ご利用料金》

基本料金（20分）……302円
加算（退院・退所後3ヶ月以内）……200円

リハビリマネジメント加算1……60円
社会参加支援加算……17円

サービス提供強化加算……6円

※ご利用時間は40分から60分の利用となります。

※表記料金は介護保険制度を利用し、一割負担の方の目安です。



お待ちしております!!

《お問合せ》

097-586-5558

訪問リハビリテーションきぼう

担当 阿南



手指装着型電極 (FEE)
治療の様子

最後にになりましたが、矢野悦郎様、柴崎純二様、中野満江様をはじめ、開発にご協力頂いた患者様に感謝申し上げます。

当院で考案した電極「手指装着型電極（以下FEE）」が特許を取得しましたので、ご報告いたします。FEEは脳卒中後の麻痺治療に用いる新型電極です。これまでに、回復が困難とされる重度の片麻痺の方にFEEを用いて、良好な治療成績を収める例を経験しています。

その治療成績を、国際学会等で報告し、2013年には英国の国際誌に論文が掲載されました。既に商品化されており、国内外をはじめ、EU諸国でも販売され多くの病院で用いられています。今後も臨床場面で生まれたアイデアを活かし、新たな機器開発に取り組みでまいりたいと思います。



リハビリ部副部長
作業療法士 加藤 貴志

井野辺病院が
特許を取得しました
（手指装着型電極（FEE））

「第8回転倒予防講演会」
を行いました。

7/7（金）井野辺病院にて、
転倒予防講演会を行いました。

講師に、藤田保健衛生大学医学部准教授 大高洋平先生をお招きしました。演題は、「リハビリテーションにおける活動と転倒」についてでした。

リハビリテーションは基本的に「動く」、「動かす」が基本になりますが、その過程で「転倒」はいつもつきまとうリスクです。転倒を単なるリスクとしてとらえては「動ける」ようになることを阻害してしまうことになり、ひいては良くなりません。活動性をあげる「アクセル」としての機能と転倒を出来る限り予防していく抑制的な「ブレーキ」として機能をうまく調整していくことが重要であることを説いていただきました。私たちは転倒事故予防に気を取られ、とかく「ブレーキ」をかけることが多くなっていたのでは...ということに気づかされました。



井野辺病院って
どんな人があるん？

今回は、2病棟の看護主任川上美紀さんをご紹介します。



看護主任 川上美紀

由布市での病院勤務を経て、今年1月から、2病棟で勤務しています。子供の頃は臨床心理士の仕事に興味を持っていましたが、祖父の入院をきっかけに、看護師になると決意したそうです。これまでは、ガン看護、リハビリ、臨床指導、若手教育など幅広く勉強してきたようです。いつも心掛けていることは、「患者さん、ご家族さんの立場を考え、自分だったらどうしたいか、どうして欲しいかと、自分に置き換えて行動するようにしています」とのことです。

休日は、ショッピングに出かけたり、時間がある時にはお菓子やパンを作ったりするのも大好きです。最近はナンを焼いて食べます。パン生地をこねるのはストレス解消にもなるんですよ〜とのことです。

もう一つの楽しみは、娘さんと一緒に「EXILE」と三代目J Soul Brothersのライブに行くことで、毎年楽しみにしているそうです。

A ジャージャー麺 (1人分)

【材料 1人分】

- ① とうもろこし 55g
- ② きゅうり20g・トマト1/8切を2切・薄焼き卵20g・もやし25g・鶏ミンチ30g・たまねぎみじん切り15g・にんにくみじん切り1g・焼肉タレ甘口4g・生姜1g・サラダ油3g・いんげん5g（斜めスライス）・にんにく10g（千切り）・茄子40g・紅生姜2g・青しそ1/2枚（千切り）
- ③ たれ 煮干汁200cc・醤油（薄口2cc・濃口5cc）・酒3cc・みりん3cc・酢6cc・練りわさび（お好みで）

【作り方】

- ① とうもろこしは固ゆで（沸騰して1分）にして水洗いし、冷水につけてザルに入れ水切りをする
- ② もやしを（砂糖0.5g・塩0.1g・酢0.2g）の甘酢に漬けておく
鶏ミンチ・たまねぎ・にんにく・焼肉タレ・生姜・サラダ油をフライパンで水分が無くなるまで炒める
茄子は、ラップをしてレンジで5分加熱し、冷まして短冊に切る
- ③ とうもろこしを器に入れ、タレをかけて②の具材を盛り付ける

編集後記

朝晩はすっかり涼しく、秋を感じる季節になってきました。秋といえば、食欲、読書、紅葉、運動会など楽しい季節ですね♪

いずみ担当



B フルーツ春巻き (1人分)

【材料 1人分】

バナナ25g・小豆缶（茹で小豆20g・春巻きの皮2枚・シナモン・粉砂糖・揚げ油

【作り方】

- ① バナナを8等分（横1/2切で縦4つ切）に切って、茹で小豆を準備する
- ② 春巻きの皮にバナナを置き、上に茹で小豆をのせて巻く（しっかりと巻く）
- ③ 170℃できつね色になるまで揚げる
- ④ しっかりと粗熱が取れたから、シナモンと粉砂糖を混ぜて茶こしで春巻きに振る **注意**▶ 春巻きが冷めないうちに粉砂糖を振りかけると、溶けてしまう！



今回のレシピは、ジャージャー麺・フルーツ春巻き・メロンゼリーを紹介します。

栄養士 三橋 由美子



夏の定番メニューです（1回/週 麺のメニュー提供）
患者さんからは、暑い時にあっさりした味で食欲が出ると評判です